

日本インカレ部便り

目次

1. 日本インカレ 講評
 - 1.1 監督より
 - 1.2 主将・女子主将より
2. 日本インカレ 試合経過
3. 選手の言葉
4. 試合結果
5. 主務より

1. 日本インカレ 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の日本インカレは、昨年から参加人数が減ったものの、引き続き6種目5名と複数名が出場。また、福井開催にも関わらず多くの部員が応援に駆けつけました。

残念ながら入賞者を出すことは出来ませんでした。近藤の10000m、高石の800m等、確り実力を発揮でき、入賞までの課題が明確になった種目もあり、意味のある結果でした。5名中4名が来年も残りますので今年の反省を活かし、来年こそは入賞者を出すとともに、毎年コンスタントに複数の選手が出場する流れを維持していきたいと思います。

1.2 主将・女子主将より

主将・寶田雅治

大学陸上で全国大会の位置付けである全日本インカレが9/8～9/10に福井で行われました。東大からは6種目5名の出場となり、出た選手は全員東大記録を持つ、またはかつて持っていた選手でしたが残念ながらどの種目も入賞には届きませんでした。

今現在、年々陸上界全体のレベルが上がっていて、それに伴い大会参加者も増加し、参加標準記録も毎年上がっていています。東大陸上部は推薦で選手を集めているわけではなく、入部していきなりこのインカレにでるとい目標を掲げるのは難しい選手が多いというのが現状です。しかし、今回出場した藤田や高石は高校の頃では全国レベルの選手ではなく、そもそも高石は大学まで陸上を経験していなかった選手です。そのような選手でもこの陸上部で正しい努力を続ければ少なくとも出場することができるということは間違いないですし、それを現に証明していると思います。最後の集合でも出た話ですが、関東インカレや全日本インカレといったインカレと名前がつく試合は大学最高峰の試合であり、そこに出場する選手が他の対校戦とは異なった意味で輝ける試合です。今いる部員には

目の前の目標を大切にすると同時に、自分こそがこの大舞台で活躍する選手になるんだという気持ちを忘れずに練習していてもらいたいです。

最後に、今シーズン最後のトラックの対校戦である京大戦に向けて万全の状態でも臨めるように練習に励んでいきます。OB・OGのみなさまには今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

女子主将・坪浦諒子

この度の全日本インカレには、女子パートからは3年高石が出場致しました。春先早々に出場標準記録を突破した後も自己ベストを更新し、全日本インカレに照準を置き練習に励んでおりました。残念ながら目標の1つであった準決勝進出とはなりませんでしたが、大舞台でも物おじしない彼女らしい積極的なレースに心を打たれた部員も多かったことだと思います。来年の全日本インカレでの更なる活躍に期待が出来ると思っております。

今年度、残る対校戦は京大戦のみとなりました。昨年同様、一人一人が最大限のパフォーマンスをし、チーム一丸となって男女総合優勝を掴み取れるよう全力を尽くします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

2. 日本インカレ 試合経過

◎トラック種目

9/8(金)

17:30 男子 10000m 決勝

去年に引き続き近藤(3年)が出場。今年の関東インカレで出した自己ベストの更なる塗り替えが期待された。スタート時は少し暑さを感じるコンディションであったが、徐々に気温が落ちていった。

スタートすると、近藤は一つの大集団の最後方に向けてレースを始め、ジリジリと位置を上げていき2'54で1000mを通過。その後、集団の先頭で留学生がペースを上げながら引っ張る展開に。近藤は集団真ん中

まで順位を上げてラップタイム 2'51 で 2000m を通過。ここから集団が二つに割れ、近藤は 17 人の先頭集団につき、2'51 のペースを維持しながら 3000m を通過。ここで先頭 9 人がペースアップするが、近藤は先頭集団につかずその後ろの集団で走る。ペースが落ち着いて 2'57 で 4000m を通過、第 2 集団で淡々とレースを進めながらトップ集団から離れた選手と距離を詰めていった。3'01 で 5000m を通過したところで少し第 2 集団もペースが上がるがそのまま集団につき、2'58 で 6000m、3'01 で 7000m を通過した。その後第 2 集団も二分し、近藤は後方の 10 位集団を引っ張る。8000m を 2'59 で通過したところで集団の後方に。9000m を 3'03 で通過後、近藤は集団の前に出てロングスパートをかけるも、ラスト 200m でスパートをかけられ、29'26"99 でフィニッシュ。最後の 1000m のラップタイムは 2'52 だった。

強豪のエースが集うレースでベスト更新こそならなかったが、その中で実力を発揮して良い順位をとれたのではないだろうか。次には京大戦、箱根予選会と大切なレースを控えている。調整をしっかりと行い、本人が満足できる結果を期待したい。

9/9(土)

11:25 男子 200m 予選

男子 200m 予選は 7 組で行われ、各組 3 着+3 が 9 月 10 日 10:20 から行われる準決勝に進出できる。東大からは 3 組 7 レーンに藤田(M1)の出場。同組には資格記録で全体 1 位の桐生に次ぐ全体 3 位につける田中などがおり、資格記録が 21" 29 と B 標準を突破して出場を決めた藤田にとっては厳しいレースとなることが予想された。しかし、今年の本人の目標は準決勝進出であったので、何としても予選を突破してほしかった。

当日は晴れており、気温もそこまで高くなく、ホームストレートでは追い風が吹くことが多いという記録を出しやすい条件であった。

スターティングリスト通り 8 名の出場。号砲が鳴

り、スタート。スタートをあまり得意としない藤田のリアクションタイムは0"185と若干遅れる。外の8レーンの選手を追うが、ホームストレートに入るところでは最下位。そこから追い上げを試みる。しかし、必死の追い上げも残り50m付近まで順位は変わらず、残り20m付近で1人、最後のフィニッシュでさらに1人をかわし、6レーンの選手と競るようにゴール。

結果は21"88(-0.2)で6着。準決勝進出とはならなかった。院生という、学部生よりも練習時間が限られた中での出場となったが、全国トップレベルで健闘したと思われる。本人の目標である、全カレでの200m優勝に向かって邁進して行ってほしい。

12:00 女子 800m 予選

3組1レーンに高石(3年)の出場。気温は30度弱、日差しも強く暑さを感じる中でのスタートとなった。予選は5組2着+6で行われ、順位で拾われるのが厳しいと判断した高石は、積極的に走りタイムでの準決勝進出を狙うプランだった。

その言葉通りスタートから積極的に走り、ブレイクでは先頭付近だった。バックストレートでは他の選手と競るも、200で先頭に出てレースを引っ張る。やや縦長の集団となり400mは先頭で通過し63"5だった。500mあたりで2人の先頭集団となり抜け出すのが600mで再び後続の集団に吸収されると、3番手に下がった。前の二人がスパートで一気に抜け出し、高石も必死にスパートするがラストはややペースが落ち、更に二人に抜かれて、2'13"95の5着でゴールし準決勝進出はならなかった。

高石にとっては初めての日本インカレであり、予選落ちという結果には悔しい思いもあるだろうが来年に向けて得られるものは多かっただろう。今後の京大戦、そして来年の関カレ・全カレなどでの更なる飛躍に期待したい。

18:00 男子 10000mW 決勝

渡邊(5年)の出場。日中は日差しが厳しかったが、日が落ちて24.5℃と涼しいコンディションでのレースとなった。関東インカレでの無念の失格後、フォームの改善に取り組んできた渡邊。過去2回の挑戦ではいずれも失格となってしまっているだけに、最後の挑戦となる今回こそは何としても完歩して記録を残したいと意気込んだ。

1キロ4'00と早いペースで入る先頭集団にはつかず、後方の集団の最後尾につけ、落ち着いた自分のペースで最初の4000mを4'12-13-12-13と刻む。4000mあたりから、徐々に集団がばらけ始める。渡邊は苦しい表情こそ見せるが、前の集団から落ちてくる選手を拾って、続く3000mでも4'19-19-20とペースダウンをできるだけ抑える。最初は30位相当程度で歩き出した渡邊であったが、渡邊らしい粘りによって着実に順位を押し上げ、18位相当に上がる。しかし、そこまでは安定した歩きを見せていた渡邊だったが、7000m付近で警告を1枚受けてしまう。それでも渡邊はペースを落とさず果敢に上位に挑み、4'21-20で刻んで残り1キロ。それまでついていた集団の先頭に躍り出て、さあここからどれだけ順位を上げられるか。ところが、ここで非情にも立て続けに2枚の警告が。健闘むなしく失格となった。

記録こそ残せなかったが、全国の舞台での渡邊らしい粘り強く果敢に挑む歩きは、応援に駆けつけた後輩たちの心を強く揺さぶった。部内随一の練習を積み重ねてここまで辿り着いた渡邊。後輩たちはその志を受け継ぎ、全カレの舞台に東大の選手が来年以降も出場できるよう、ますます練習に励んでほしい。

19:20 男子 5000m 決勝

近藤(3年)の出場。前日の10000mに続くレースであったため疲労が残っていたものの、スタートは夜とコンディションとしては最高の状態であったため、13分台の記録も期待された。

スタート直後から集団の前方につけ一時は先頭で集

団を引っ張るなど、積極的な走りを見せ最初の 1000mを 2'44"で通過した。その後は徐々に後退し 2000m手前の時点で集団の中央付近に位置したもののハイペースは維持し、1000mから 2000mのラップは 2'47"。その後集団がばらけ始めると、近藤も粘りを見せたが先頭集団からは離され、3000m地点を 15番手で通過、この 1000mは 2'53"であった。3000m以降はさらに動きがきつくなり、1000mのラップで 3'06"にまでペースを落とした。しかしラスト 1000mは切り替えてペースを上げ、14'27"88の 20位でフィニッシュ。この 1000mは 2'57"であった。

入賞は叶わなかったが、前半の積極的なレース展開は、本人も含め会場にいる我々が楽しむことができるものとなった。一か月後に迫った箱根駅伝予選会での好記録、さらには本選出場に期待したい。

◎フィールド種目

9/8(金)

11:00 男子棒高跳 決勝

2年三宅の出場。天候は晴れ、気温は 30℃なく、絶好のコンディションであった。追い風が吹いていたが、少し強すぎて風でバーが落ちてしまうほどだった。7月半ばに香川で標準記録を突破し、久しぶりの全国規模の大会での活躍が期待された。4m80から競技を開始した。前の2人がパスしたため試技順1となった。

1本目の跳躍。よく走っていた助走だったが、惜しくもバーが落ちる。追い風が普段より強かったので、2本目以降で修正が必要となった。他の選手も1回目は失敗した人が多かった。

2本目の跳躍。よく浮いて超えたように見えたが、胸を当ててしまう。跳躍高はかなり出ていたので3本目は成功が期待された。

3本目の跳躍。この日一番の跳躍だったがこれも失敗。残念ながら NM で競技終了。

全カレの壁に阻まれた試合内容であったが、2年生にして日本インカレを経験したことは大きなものであ

り、記録なしであったが今後に向けて実りのある試合となった。来年の日本インカレではぜひベンジしてほしい。

3. 選手という言葉

短距離 M1 年 藤田旭洋 (200m)

短距離 M1 の藤田です。今回の目標は PB で準決勝進出でした。持ちタイム的には自分の一つ内レーン、または一つ外レーンの選手に勝てば準決勝進出という状況でした。調整は上手く行っており、サブトラのウォームアップで好調を確信しました。

いざレース本番、スタートも上手く決まり、20秒台の自己ベストを持つ一つ外の選手に序盤で追いつくほどでした。そしてそのままコーナー出口までは3位争いをしながらラストの直線へ。

しかしラストの直線では前年まで得意としていた後半のスパートができず8人中6位まで順位を落としてしまいました。

反省としてはラストスパートのための走り込みが足りていなかった、に尽きると思います。

院生陸上を始めてちょうど一年、当然ながら学部の頃よりも絶対的練習時間は減り、いかに練習を最適化するかという点に一層重きが置かれた感が否めません。その中でも今季は 100m をほぼベストの記録で走れていることや、全カレレベルの試合でも 200m の前半は食らいついていけたことを踏まえて、工夫さえすれば限られた練習時間でもトップスピードの向上なら望めるという手応えを掴みました。来年以降は 100m を軸にもう一度精進する所存です。

この度の応援サポートに心より感謝申し上げます

競歩5年 渡邊成陽 (10000m)

男子10000mWに出場しました。競歩パートの渡邊です。

日本インカレは3回目の出場となりました。昨年の6月以降歩きのフォームを変えたこともありスピード、フォームの面で不安をずっと抱えていたのですが、全カレ2週間前程から少し歩きが安定してきた感覚があったので、あまり不安に思いつぎないようにして練習に取り組んでレースに備えました。レース前の調整はかなり良い感覚でした。レース本番ではフォームに気を付けながら後半に順位を上げていくレースの運びをしました。中盤から終盤にかけて余力があり、順位もじりじりと上がっていたのですが、8000m以降から警告が溜まってしまい、9600m地点で失格となりました。全カレは計3回出場して3回とも失格となってしまいました。一昨年、昨年はかなり高いレベルで歩けていただけに全カレで結果を残すことができなかったことは残念でした。体の柔軟性が無さすぎるとか細かい言い訳は色々あるのですが、結局のところ実力不足でした。今後はレースも少なくなってくるのですが、競歩界においても東大陸上部内においても決して本流とは言えない立場にある身として周囲に刺激を残していけるような活動が出来ればと考えています。遠い中応援やサポート、マネージャー業務等ありがとうございました。

長距離3年 近藤秀一 (5000m・10000m)

長距離3年の近藤です。10000mと5000mに出場させていただきました。実力的に入賞は難しい位置であり、暑さもありレース展開が読めない中で自己ベストを目指すのも現実的ではないと考えたので、大舞台で自分の実力をいかに発揮できるかというところに主眼を置いて臨みました。当日までの練習は計画通りにできており、後は試合を楽しむだけという理想的なメンタルで臨むことができました。

初日の10000mは自分の適正ペースで進む10位集団につけることができ、ラストでかわされてしまったものの14位と力を出し切ることはできました。2日目の5000mは、最初の2000mの入りか5'31とかなり速いペースだったことで、動きに余裕がなくなりレースを立て直すことができず20位に終わりました。動きの乱れた後半は不完全燃焼で残念な内容となりました。

今回の全カレで、レースペースの余裕度をもう一段階高めることと、ラストのスプリント力を高めることが入賞への課題であることを認識しました。来年こそは入賞して少しでも後輩の励みになればと思います。

遠方まで応援・サポートありがとうございました。

中距離3年 高石涼香 (800m)

女子800mに出場しました。予選の組のうち、資格記録が抜けており決勝に残るのが確実にされた選手が二人おり、準決勝通過ラインが2着+6である以上、着順で通るのは難しく、最初からタイムを狙っていきましました。自分のベスト2'11"23を再び出せばタイムで拾われる可能性は高いという状況でした。

自己ベストを出した7月から一転して8月は不調が続き、試合直前まで突貫工事的に練習を積むことによってなんとかこの大会に合わせてきました。走りの感覚も最後にやっとはまるようになり、調子は戻ってきていました。

予選のレースは、バックストレートで風が強かった影響もあってフロントランするであろう選手が前をいかず、スローペースに持ち込みたくない自分がブレイクから前を引く形となりました。400m通過は63"台で自分にとっては最適なペースでしたが、課題の600m以降で前をいく選手が現れたときに、体が動かなくなり、タイムも残せず終わってしまいました。

初めてのインカレはあっけなく終わりましたが、来年こそ何かを残すために、練習を積んでいきたいと思っています。応援のほど、ありがとうございました。

跳躍2年 三宅功朔 (棒高跳)

7月に地元香川の試合で全日本インカレのB標準である5m10を跳んだ時は、2~3m/sの追い風が吹き続ける大変良い条件の下でした。走力がまだ追いついていない私にとって風はかなり重要なファクターでありましたので、あの風があつてこそ跳べたと言えます。しかしその前後の試合でも跳べそうな手応えは得られており、数試合に一度は良い気候条件に恵まれることを考えると、跳ぶべくして跳んだ高さとも言えました。

今回の全日本インカレも大変気候条件が良い条件でした。3~4m/sの追い風が真後ろから常時吹いていて、これまで出てきた試合の中でトップレベルに良い条件だったのかもしれませんが、それだけに、記録なしに終わってしまったのは非常にもったいなかったと思います。今期は全日本インカレに出ることだけを目標にしてきたので気持ちが切れてしまい8月に良い練習ができなかったこと、高校時代に作っていた跳躍の感覚を忘れつつあることが理由として挙げられます。新たな目標は見つけられました。今回条件がよかった中でも5m20を1本でクリアできれば入賞できるということだったので、来年は多少レベルが下がりそうですし、入賞を目標に掲げられる段階にあるのかもしれないと感じました。来年は川崎での開催ということで家から通えますし、ぜひ東大陸上部に全日本インカレ入賞を持ってきたいと思っています。

4. 試合結果

第68回全国七大学対校陸上競技大会

男子 200m

予選(3着+3)

3組(-0.2)

6 藤田 旭洋 東大 21"88

決勝(+1.6)

1 小池 祐貴	慶大	20"58
2 田中 佑典	ウエルネス大	20"62
3 山下 潤	筑波大	20"77
4 齊藤 勇馬	筑波大	20"93
5 徳山 黎	早大	21"04
6 伊里 洋海	関西学院大	21"27
7 齊藤 郁馬	東学大	21"28
8 小川 拓夢	常葉大	21"39

男子 5000m 決勝

1 レダマ・キサイヤ	桜美林大	13'35"19
2 パトリック・ワンブイ	日大	13'46"60
3 阪口 竜平	東海大	13'47"85
4 坂東 悠汰	法大	13'52"45
5 館澤 亨次	東海大	13'52"98
6 光延 誠	早大	13'57"23
7 野中 優志	関西学院大	13'59"75
8 山本 修二	東洋大	14'00"77
20 近藤 秀一	東大	14'27"88

男子 10000m 決勝

1 サイモン・カリウキ	日本薬科大	28'20"50
2 パトリック・ワンブイ	日大	28'21"85
3 西山 和弥	東洋大	28'44"88
4 塩尻 和也	順大	28'47"50
5 松尾 淳之介	東海大	28'50"94
6 ジェフリ・ギチア	第一工業大	29'08"67
7 太田 智樹	早大	29'09"06

8 石井 優樹	関西学院大	29'14"08
14 近藤 秀一	東大	29'26"99

男子棒高跳 決勝

1 鈴木 康太	中京大	5m60
2 江島 雅紀	日大	5m50
3 来間 弘樹	順大	5m50
4 澤 慎吾	日大	5m40
5 大久保 圭介	関西学院大	5m30
6 石川 拓磨	中京大	5m30
7 植松 倫理	筑波大	5m20
8 小木曾 光	中京大	5m20
三宅 功朔	東大	NM

女子 800m**予選(2着+6)****3組**

5 高石 涼香	東大	2'13"95
---------	----	---------

決勝

1 北村 夢	日体大	2'00"92
2 広田 有紀	秋田大	2'05"01
3 池崎 愛里	順大	2'07"38
4 卜部 蘭	東学大	2'09"52
5 熊谷 彩音	日体大	2'10"14
6 内山 成美	東学大	2'10"22
7 松本 奈菜子	筑波大	2'11"66
8 杉山 香南	順大	2'13"83

5.主務より**5.1 応援 OB・OG 紹介**

9/8～10 に福井運動公園陸上競技場で行われました、天皇賜杯第 86 回日本学生陸上競技対校選手権大会に際し、応援に駆けつけてくださった OB・OG の方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和 58 年卒 八田秀雄
 平成 11 年卒 明石顕
 平成 17 年卒 藤田靖浩
 平成 23 年卒 近藤堯之
 平成 23 年卒 斉藤瞬也
 平成 23 年卒 園部竜也
 平成 23 年卒 渡邊拓也
 平成 28 年卒 小南直翔
 平成 28 年卒 藤田旭洋
 平成 29 年卒 阿部龍太郎
 平成 29 年卒 加藤騎貴
 平成 29 年卒 軽部智
 平成 29 年卒 西川拓
 平成 29 年卒 福島洋佑

遠方にもかかわらず、また暑い中、たくさんの方々が応援に駆けつけてくださいました。部員一同、心より御礼申し上げます。

5.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

9.30(土)	京大戦@駒場
10.14(土)	箱根駅伝予選会@立川

5.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二	
TEL	: 03-5370-9370
Mail	: Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：後藤裕瑛	
〒240-0046 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向西 22-3-914	
TEL	: 070-6573-6935
Mail	: shumu@uttf.org
学生主務補：富原健太	
Mail	: uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 後藤裕瑛

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の須藤までお送り下さい。

部便り主任 須藤克誉

(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)